

渡航助成の報告書 -ISBE2016に参加して-

広域システム科学専攻 修士課程 藤岡春菜

この度、東京大学大学院総合文化研究科のご援助をいただき、ISBE2016(the International Society for Behavioral Ecology)への参加をさせていただきました。今回は、貴重な機会を与えていただき、誠にありがとうございます。

ISBE は、動物行動学、進化生物学、集団生態学などを対象とする国際学会です。2016 年は、イギリス、エクセター大学で開催されました。エクセターは、イギリスの西南部に位置し、ヒースロー空港から、電車に乗り、3 時間ほどで到着しました。車窓からは、映画で見るような田園風景を眺めることができました。イギリスの夏は、日中は日差しが強いですが、曇りの日や夜は、大変涼しく、厚手の上着を持ってきてないことを後悔しました。

初日、夕方からオープニングセレモニーでリチャード・ドーキンス博士の講演でした。彼の著書「利己的な遺伝子」は、私がこの分野を目指すきっかけとなった本です。講演を聴くことができ、感動しました。国際学会での発表を聞き、自信を持った話し方や、話自体もストーリー性があり面白く、ジョークを言い聴衆を楽しませる発表がほとんどでした。日本でも、面白く研究の話をするのは、この分野で望まれていると思っていますが、海外の方の発表を聞いて、楽しませる姿勢、そして、魅せる姿勢は日本とは比べものにならず、今度研究者として目指すべき姿だと思いました。楽しませる姿勢は、大会の運営側からも見ることができました。口頭発表で使用する時間を知らせるベルに、マルハナバチの羽音、イルカや鳥の鳴き声など動物の鳴き声を使用されていました。



ポスター発表の様子

私は、アリの概日リズムが育児行動によって受ける影響を調べた研究をポスターセッションで発表しました。ワインやビールなどが提供されながらの発表で、ここでもまた日本との違いを感じました。最も気になったことは、日没が 22 時間という日長時間の長さです。動物の 1 日周期での活動を研究している私にとっては、このような環境で生きる動物の活動時間が気になりました。



エクセター大聖堂

現地時間 19 時半の大学の様子

行動学の最前線を知ること、そして日本との違いを体験できたことは貴重な体験でした。